

を行い、1995年に優良品種となった。

特性概要

1. 発芽は「メロディスweet」や「リワード」並かやや早く、初期生育は「メロディスweet」や「リワード」よりやや優る。
2. 早生の中に属する。抽出期は「メロディスweet」より4日程度早く、「リワード」に比べると1日遅い。収穫適期は「メロディスweet」より6日程度早く、「リワード」並である。
3. 稈長と着雌穂高は「リワード」並で、「メロディスweet」に比べ稈長は低く、着雌穂高は高い。耐倒伏性は「メロディスweet」に比べ劣るが、「リワード」よりは明らかに優る。
4. 穂芯長は「メロディスweet」並かやや長く、「リワ

- ド」より短い。雌穂長は「リワード」並で「メロディスweet」よりやや長い。粒列数は約17行である。
5. 剥皮雌穂重は「メロディスweet」より多く、「リワード」よりやや多い。
 6. すず紋病抵抗性は「メロディスweet」並かやや強く、「リワード」や「メロゴールド」に比べるとやや弱い。こま葉枯病抵抗性は「メロディスweet」より弱く、「リワード」より強い。

7. ホールカーネル加工の品質は、色、香味、食感は「ジュビリー」と同程度で、「リワード」より明らかに優る。
- 栽培適地と奨励態度

北海道一円に適し、「リワード」に置き換えて普及し、加工用sweetコーンの高品質・安定多収に寄与する。栽培上の注意は、一般栽培基準に準ずる。

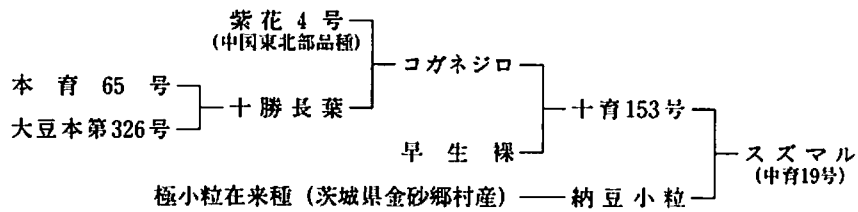
試験場名	品種名	初期生育 (1-5)	絹糸抽出期 (月日)	収穫期 (月日)	倒伏 (%)	10a 当り		穂芯長 (cm)	雌穂長 (cm)	粒列数 (行)	試験年次
						剥皮雌穂重 (kg)	同左比 (%)				
十勝農試	sweetエール	2.2	8.5	9.2	1.4	912	101	17.1	14.4	16.8	1992~1994
	メロディスweet	2.2	8.9	9.7	0.2	905	100	16.7	13.3	16.3	
	リワード	2.2	8.4	9.2	36.3	838	93	17.6	14.4	17.9	
上川農試	sweetエール	2.1	7.28	8.21	0.0	1,239	105	18.1	16.8	17.2	1992~1994
	メロディスweet	2.1	8.1	8.26	0.0	1,183	100	17.6	15.7	16.0	
	リワード	1.9	7.27	8.21	0.0	1,172	99	19.0	16.4	17.9	
北見農試	sweetエール	1.9	8.12	9.9	1.0	1,216	104	17.5	15.9	17.2	1991~1994
	メロディスweet	2.6	8.17	9.16	0.0	1,172	100	18.4	16.6	15.9	
	リワード	2.4	8.12	9.8	29.3	1,185	101	19.4	16.0	18.1	
中央農試	sweetエール	2.0	8.4	8.29	1.7	1,395	108	18.1	15.7	16.5	1991~1994
	メロディスweet	2.3	8.8	9.4	0.0	1,297	100	17.4	15.3	15.3	
	リワード	1.9	8.2	8.27	13.4	1,252	97	18.5	15.1	17.4	

参照 1) 北海道農政部編、平成7年普及奨励ならびに指導参考事項、18-21(1995)。

6. 大豆

- (1) スズマル (系統名 中育19号) 1988年
 登録番号：(北海道) 大豆北海道第30号
 (農水省) だいで農林89号
 (種苗法) 第2043号

来歴 本品種は、道央地方に適する納豆用小粒種の育成を目標として、1975年に北海道立中央農業試験場において「十育153号」を母とし、「納豆小粒」を父として人工交配し、その雑種後代から育成した納豆用品種で、1982年より「中系108号」、1984年から「中育19号」の系統名で各種の試験を行い、1988年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 主茎長は「スズヒメ」よりやや長く、主茎節数はやや多く、分枝数も多い。伸育型は有限である。
2. 胚軸色は紫、小葉の形は長葉、毛背の色は白、熟莢色は淡褐である。
3. 子実は球形、種皮色及び臍色は黄であり、粒の大きさは「スズヒメ」よりやや大きく、外観品質は「スズヒメ」より優る。
4. 開花期は「キタムスメ」より4日、「スズヒメ」より2日それぞれ遅く、成熟期は「スズヒメ」より4日遅く「キタムスメ」より4日早い中生種であり、生態型は夏大豆型に属する。
5. 耐倒伏性は「スズヒメ」並に強く、裂莢性は「スズヒメ」と同様に中である。
6. ダイズわい化病抵抗性とダイズシストセンチュウ抵抗性は弱である。
7. 子実収量は「スズヒメ」より多い。

8. 子実の粗蛋白質含有量は「スズヒメ」よりやや高く、粗脂肪含有率は「スズヒメ」並で、納豆の加工適性は「スズヒメ」と同程度である。

栽培適地と奨励態度

道央中・南部、羊蹄山麓地域及びこれに準ずる地域に適し、道央向け納豆用大豆として、栽培の多い秋田銘柄大豆の一部にかえて集団栽培として普及する。栽培上の注意は、種子消毒、ダイズわい化病及びマメシクイガなどの防除は従来品種同様に行い、ダイズシストセンチュウ抵抗性や耐湿性は弱なので、輪作を行い、排水不良地へは作付けしない。やや密植で多収となるので、10a当たり8,000株程度を確保し肥沃地では倒伏させない。納豆加工適性をもたせるため、刈り取り後の乾燥は、急激な人工乾燥を避け自然乾燥とし、均一な品質の納豆用大豆を安定供給するため、集団栽培をする。その他の肥培管理は従来品種に準じて行う。

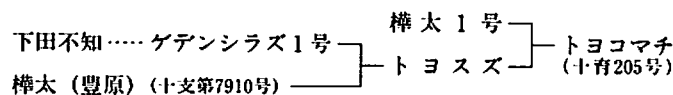
試験場名	品種名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			倒伏 程度	10a当り		百粒重 (g)	品質	試験年次
				主茎長 (cm)	分枝数 (本)	莢数 (莢)		子実重 (kg)	同左比 (%)			
中央農試	スズマル	7.30	9.30	56	8.9	126.0	少	309	95	13.4	上下	1984~1987
	スズヒメ	7.28	9.26	51	6.6	114.5	無	256	79	13.0	中上	
	キタムスメ	7.26	10.4	70	5.3	87.0	中	325	100	27.9	中上	
	ユウヒメ	7.28	10.6	60	6.0	63.2	中	310	95	41.1	上下	
	トヨスズ	7.22	10.5	43	4.7	66.9	無	311	96	32.4	中上	

注) 成熟期における分枝数と莢数は株当たりの数値であり、以下同様である。

- 参照 1) 北海道農務部編, 昭和63年普及奨励ならびに指導参考事項, 10-13(1988).
 2) 番場宏治 等, 北海道立農試集報, 58, 55-69(1988).

(2) トヨコマチ (系統名 十育205号) 1988年
 登録番号: (北海道) 大豆北海道第31号
 (農水省) だいで農林90号
 (種苗法) 第2042号

来歴 本品種は、1975年に北海道立十勝農業試験場において「トヨスズ」より早熟な品種の育成を目標とし、「樺太1号」を母に、「トヨスズ」を父として人工交配し、以後選抜と固定を図り、その後代系統から育成したもので、1982年より「十系669号」、1983年からは「十育205号」の系統名で各種の試験を行い、1988年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 主茎長は「トヨスズ」や「トヨムスメ」と同様短茎、主茎節数は少、分枝数は「トヨムスメ」や「ヒメユタカ」と同様に中で、伸育型は有限であり、熟莢色は淡褐を呈する。
2. 胚軸色及び花は紫、小葉は円葉、毛茸は白、直毛、その多少は中である。
3. 粒形は「トヨスズ」や「トヨムスメ」と同様扁球、粒の大小は中の大である。種皮及び臍色は各々黄白及び黄である。外観品質は「トヨスズ」と同じ上である。
4. 裂皮の発生は「トヨスズ」より少なく、臍周辺の着色粒の発生は「トヨスズ」や「トヨムスメ」及び「キタコマチ」より少ない。
5. 開花期は「ヒメユタカ」より早く、「トヨスズ」や「トヨムスメ」及び「キタコマチ」並で中の早に属し、成

熟期は「キタコマチ」並の中の早である。

6. 耐倒伏性やダイズシストセンチュウ抵抗性は強、低温及び黒根病抵抗性は各々やや強及び弱である。
7. 子実収量は「トヨムスメ」や「ヒメユタカ」より劣り、「キタコマチ」と同水準である。
8. 子実成分は「トヨムスメ」や「ヒメユタカ」と同じく粗蛋白含有率は中、粗脂肪含有率は低である。

栽培適地と奨励態度

道央中・北部、十勝、網走内陸・沿海及びこれに準ずる地帯に適し、当該地帯の「トヨスズ」や「秋田銘柄品種」とおきかえて普及する。栽培上の注意は、種子消毒、ダイズわい化病、ダイズ茎疫病及びマメシンクイガなどの防除は従来品種同様に行い、ダイズシストセンチュウ抵抗性をもっているが、連作あるいは短期の輪作は避ける。その他の肥培管理は、従来品種に準じて行う。

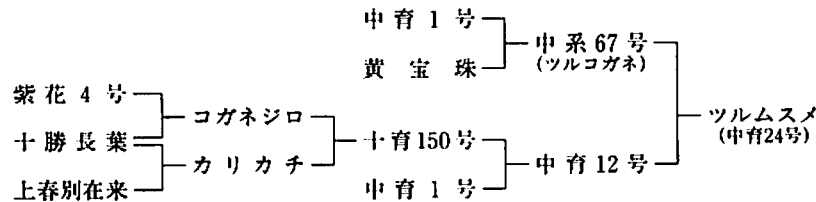
試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	主茎長 (cm)	主 茎 節 数 (節)	分枝数 (本)	莢 数 (莢)	倒 伏 程 度	10 a 当り		百粒重 (g)	品 質	試験年次
									子実重 (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	トヨコマチ	7.25	9.29	52	10.9	4.5	50.6	微	259	97	30.4	上	1983~1987
	トヨスズ	7.25	10.8	49	10.6	3.9	50.1	微	266	100	31.0	上	
	トヨムスメ	7.25	10.5	51	10.4	4.5	54.4	微	274	103	31.9	上	
	ヒメユタカ	7.28	10.6	69	12.3	5.0	53.7	少	283	106	32.7	上	
	キタコマチ	7.24	9.29	52	10.9	3.9	52.2	微	258	97	28.1	中	

- 参照 1) 北海道農務部編, 昭和63年普及奨励ならびに指導参考事項, 14-18(1988).
 2) 佐々木絃一 等, 北海道立農試集報, 60, 45-58(1990).

(3) ツルムスメ (系統名 中育24号) 1990年
 登録番号: (北海道) 大豆北海道第32号
 (農水省) だいず農林94号
 (種苗法) 第2876号

来歴 本品種は、道央地方に適する白目・極大粒・良質およびダイズわい化病抵抗性品種の育成を目標とし

て、1979年に北海道立中央農業試験場において「中系67号」を母、「中育12号」を父として人工交配を行い、以後選抜と固定を図り、1986年より「中系155号」、1987年からは「中育24号」の系統名で各種の試験を行い、1990年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 主茎長及び主茎節数は「ユウヒメ」並であるが、分枝数はやや少ない。
2. 胚軸色は緑、小葉の形は円葉、花色は白、毛茸は白・

直毛でその多少は中である。

3. 粒の大きさは「ユウヅル」並に大きく、極大粒に属し、種皮及び臍の色は黄白・黄で、粒形は扁球に近い球、裂皮の発生は比較的少なく、外観品質は良い。

4. 開花期は「ユウヒメ」並で、成熟期は「ユウヒメ」と同等かやや早い中生種で、生態型は夏大豆型に属する。
5. 耐倒伏性は強、ダイズわい化病抵抗性は「ツルコガネ」よりやや弱く、「ユウヅル」より優り、やや強である。ダイズシストセンチュウ抵抗性と耐湿性は比較品種並に弱、耐冷性は中である。
6. 子実収量は標準品種の「ユウヒメ」及び参考品種の「トヨムスメ」並である。
7. 子実の粗蛋白含有率は「ユウヒメ」並、粗脂肪含有率は「ユウヒメ」並で「ユウヅル」より高く、加工適

性は「ユウヅル」並である。

栽培適地と奨励態度

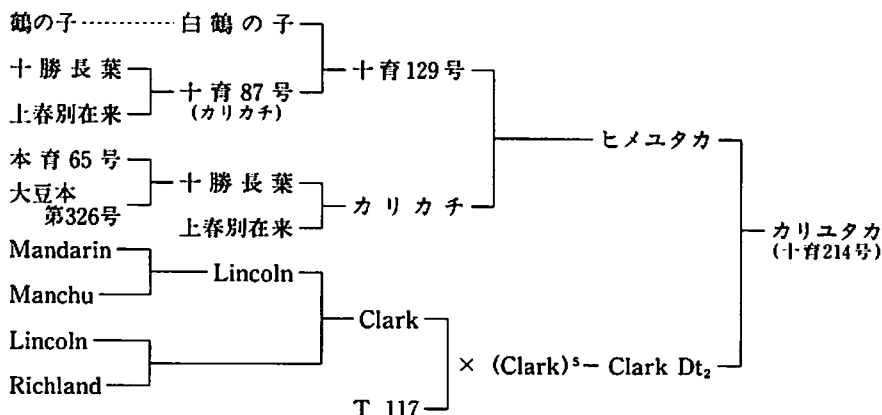
道央の中部、南部、羊蹄山麓及び道南地域に適する。栽培上の注意は、ダイズわい化病に抵抗性であるが、アブラムシの多発する圃場では、播種時の防除及び生育初期の茎葉散布による防除を実施する。耐倒伏性が優れるので、やや密植で多収が期待できる。ダイズシストセンチュウ抵抗性は弱なので、発生圃場への作付けは避け、適正な輪作のもとで栽培し、耐湿性が弱いので排水不良地での栽培は避ける。その他の肥培管理及び脱穀調整は従来の極大粒品種に準じて行う。

試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒 伏 程 度	成熟期における			10 a 当り			百粒重 (g)	試験年次
					主茎長 (cm)	分枝数 (本)	莢 数 (莢)	全 重 (kg)	子実重 (kg)	同左比 (%)		
中央農試	ツルムスメ	7.28	10.3	微	56	5.6	66	670	343	99	40.7	1987~1989
	ユウヒメ	7.29	10.6	多	59	6.3	64	710	345	100	40.4	
	ユウヅル	8.3	10.16	多	75	4.3	57	630	278	81	41.4	
	ツルコガネ	7.24	10.9	少	74	6.7	70	680	308	89	35.1	
	トヨムスメ	7.23	10.4	微	47	5.1	71	680	345	100	34.4	
道南農試	ツルムスメ	7.23	9.30	無	53	4.0	44	540	279	113	40.9	1987~1988
	ユウヒメ	7.26	10.1	少	63	5.5	49	560	264	98	44.0	
	ユウヅル	7.30	10.9	中	76	3.7	50	590	248	100	40.9	

- 参照 1) 北海道農務部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 18-21(1990).
 2) 中村茂樹 等, 北海道立農試集報, 63, 71-82(1991).

- (4) カリユタカ (系統名 十育214号) 1991年
 登録番号: (北海道)大豆北海道第33号
 (農水省)だいで農林95号
 (種苗法)第3293号

来歴 本品種は、難裂莢で機械収穫適性の高い白目中粒品種の育成を目標として、1980年に北海道立十勝農業試験場において「ヒメユタカ」を母とし、「Clark Dt₂」を父として人工交配し、以後選抜と固定を図り1986年より「十系735号」、1987年から「十育214号」の系統名で各種の試験を行い、1991年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 主茎長は「トヨムスメ」と同様短茎、主茎節数は少、分枝数は「トヨムスメ」並の中である。伸育型は有限であり、熟莢色は淡褐を呈する。
2. 胚軸色および花色は紫、小葉は円葉、毛茸は白、直毛でその多少は中程度である。
3. 粒形は球、粒の大小は中の大で、種皮色は黄白、臍色は黄である。外観品質は「トヨムスメ」と同様上であり、裂皮粒の発生は「トヨスズ」より少ない。
4. 開花期は「トヨムスメ」より遅く、成熟期は「トヨムスメ」並の中であり、生態型は夏大豆に属する。
5. 耐倒伏性は強で、最下着莢節位は高い。ダイズシストセンチュウ抵抗性は弱、黒根病抵抗性は強、低温抵抗性は中、裂莢の難易は「ワセコガネ」と同じく難で

あり、コンバイン収穫に適する。

6. 子実収量は「トヨムスメ」より劣り、「トヨスズ」と同水準である。
7. 子実の粗蛋白含有率と粗脂肪含有率は中に分類され、豆腐加工適性は「トヨムスメ」並で、「キタムスメ」より優れる。

栽培適地と奨励態度

十勝、道央、網走内陸地域に適する。栽培上の注意は、コンバイン収穫では、汚粒発生が品質に大きく影響するので、ダイズわい化病や雑草の発生がないように防除を徹底し、ダイズシストセンチュウ抵抗性は弱なので、発生圃場への作付けは避け、適正な輪作のもとで栽培する。その他の肥培管理は従来の品種に準じて行う。

試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒 伏 程 度	成熟期における			10 a 当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
					主茎長 (cm)	分枝数 (本)	莢 数 (莢)	子実重 (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	カリユタカ	7.24	10. 6	少	57	5.8	59.6	281	94	30.8	2下	1987~1990
	トヨムスメ	7.20	10. 4	微	52	4.5	53.6	298	100	36.0	2下	
	トヨスズ	7.19	10. 9	微	51	4.1	49.1	281	94	34.1	2下	
	ワセコガネ	7.17	10. 3	中	86	5.6	79.2	294	99	20.9	2下	
	キタコマチ	7.17	9.28	少	52	4.2	54.0	274	92	30.4	3中	
	キタムスメ	7.22	10. 6	少	74	5.9	63.3	320	107	31.8	2下	
北 見 農 試	カリユタカ	7.27	10. 4	微	58	5.7	72	279	98	29.3	2中	1987~1990
	トヨムスメ	7.23	10. 2	微	51	5.1	60	285	100	33.6	2中	
	トヨコマチ	7.22	9.27	微	53	5.0	58	282	99	32.0	2中	
上 川 農 試	カリユタカ	7.21	10. 1	少	74	4.7	76	348	109	30.7	2上	1987~1990
	キタコマチ	7.14	9.23	少	63	5.3	57	320	100	31.1	3中	
	トヨムスメ	7.17	10. 1	少	60	5.7	64	364	114	35.4	2中	

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成3年普及奨励ならびに指導参考事項, 7-11(1991).
 2) 田中義則 等, 北海道立農試集報, 65, 29-43(1993).

(5) 音更大袖 (原名 音更大袖) 1991年
 登録番号: (北海道) 大豆準北海道第1号

来歴 本品種は、音更町中音更の農家が「大袖振」大豆から選抜し、1970年頃から栽培されていた在来種である。1964年の大冷害に早熟安定性が注目され、さらに1966年の冷害年以降は急速に普及し、産地品種銘柄として取引されるに至った。十勝農業試験場では、1985年から生産力検定予備試験に供試し、1988年からは道内関係機関で各種の試験を行い、1991年に優良品種となった。

特性概要

1. 主茎長は「早生緑」と同様の短茎、主茎節数は少、

分枝数は中である。伸育型は有限であり、熟莢色は褐色を呈する。

2. 胚軸色と花色は紫、毛茸色は褐、直毛でその多少は中程度である。
3. 粒形は扁球、粒の大小は大の小、種子色は緑、臍色は暗褐、外観品質は「早生緑」並かやや優る。
4. 開花期は中、成熟期も「キタムスメ」並の中であり、生態型は夏大豆に属する。
5. 耐倒伏性は中、ダイズシストセンチュウ抵抗性、ダイズ黒根病、ダイズわい化病、ダイズ茎疫病抵抗性はいずれも弱で、低温抵抗性は強である。
6. 子実収量は「早生緑」を上回り、製菓原料としては、

粒揃い及び味が良く評価が高い。

栽培適地と奨励態度

十勝・道央・網走内陸地域に適す。栽培上の注意は、

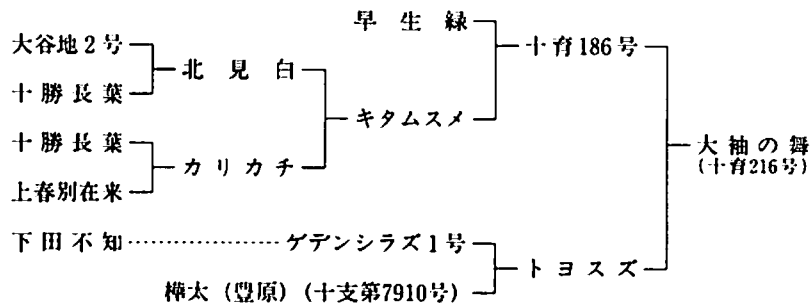
ダイズシストセンチュウ抵抗性が弱なので、発生圃場への作付けは避け、適正な輪作のもとで栽培する。その他の肥培管理及び防除は、従来の品種に準じて行う。

試験場名	品種名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			倒伏 程度	10a当り		百粒重 (g)	品質 (等級)	試験年次
				主茎長 (cm)	分枝数 (本)	莢数 (莢)		子実重 (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	音更大袖	7.22	10.2	54	6.1	50	少	291	111	36.9	3上	1988~1990
	早生緑	7.24	9.28	50	6.5	54	微	263	100	33.4	3中	
	キタムスメ	7.22	10.6	74	6.0	65	少	333	127	32.4	3上	

参照 1) 北海道農政部編, 平成3年普及奨励ならびに指導参考事項, 30-32(1991)。

(6) 大袖の舞 (系統名 十育216号) 1992年
登録番号: (北海道) 大豆北海道第34号
(農水省) だいず農林98号
(種苗法) 第4116号

来歴 本品種は、ダイズシストセンチュウ抵抗性強のあお豆品種の育成を目標として、1978年に北海道立十勝農業試験場において「十育186号」を母、「トヨスズ」を父として人工交配し、以後選抜と固定を図り、1985年より「十系720号」、1988年からは「十育216号」の系統名で各種の試験を行い、1992年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 主茎長は短、主茎節数は少、分枝数は中である。伸育型は有限であり、熟莢色は淡褐を呈する。
2. 胚軸色は緑、花色は白、小葉は円葉で毛茸色は白、直毛でその多少は中程度である。
3. 粒形は球、粒の大小は大の小、種皮色は緑、臍色は黄であり、外観品質は「早生緑」より優れ、裂皮の発生は「早生緑」よりやや多く、臍周辺の着色は「トヨムスメ」より少ない。
4. 開花期は「早生緑」より早く中の早、成熟期は中に分類される。
5. 耐倒伏性とダイズシストセンチュウ抵抗性は強、低

温抵抗性は中、黒根病抵抗性は弱、裂莢の難易は易である。

6. 子実収量は「トヨムスメ」並に多収である。
7. 製菓用原料としては、「音更大袖」とほぼ同等で「早生緑」より優れる。

栽培適地と奨励態度

十勝、網走地域及びこれに準ずる地帯に適する。栽培上の注意は、ダイズわい化病抵抗性は弱なので、防除を徹底する。ダイズシストセンチュウに対して「トヨムスメ」並の抵抗性を持つが、栽培に当たっては適正な輪作を前提とし、収穫が遅れると種皮色が淡くなり、裂莢は易であるので、成熟後すみやかに収穫する。

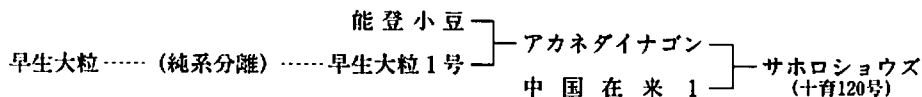
試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			倒 伏 程 度	10 a 当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
				主茎長 (cm)	分枝数 (本)	莢 数 (莢)		子実重 (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	トヨホマレ	7.24	10. 8	55	4.0	64.6	微	307	107	32.9	2下	1990~1993
	トヨムスメ	7.22	10. 7	57	4.7	54.6	微	287	100	35.3	2下	
	トヨコマチ	7.20	9.30	59	4.7	48.7	微	254	89	33.5	2中	
	キタムスメ	7.22	10.10	70	5.0	54.9	少	293	102	33.4	2下	
北見農試	トヨホマレ	7.25	10. 7	51	4.2	65.1	微	284	108	31.5	2上	1990~1993
	トヨムスメ	7.24	10. 6	50	4.4	52.0	少	262	100	33.6	3中	
	トヨコマチ	7.23	10. 1	54	4.5	53.2	少	262	100	32.8	2上	
	キタムスメ	7.26	10.12	71	4.8	65.2	中	283	108	31.0	2中	
上川農試	トヨホマレ	7.20	10. 6	67	5.0	76.8	少	323	99	31.2	2下	1990~1993
	トヨムスメ	7.20	10. 3	66	6.2	62.3	中	325	100	33.1	2下	
	トヨコマチ	7.21	9.28	67	5.0	59.9	少	302	93	31.7	3上	
	キタムスメ	7.22	10. 5	97	4.8	75.5	中	321	99	28.1	3中	
遺伝資源 センター	トヨホマレ	7.13	9.27	48	5.0	69.9	無	351	97	32.6	2下	1990~1993
	トヨムスメ	7.14	9.25	50	6.3	63.0	無	363	100	34.3	2中	
	トヨコマチ	7.13	9.21	49	5.4	55.5	無	314	87	32.9	2中	
	キタムスメ	7.14	9.29	70	5.3	74.6	無	398	110	30.8	2下	

参照 1) 北海道農政部編, 平成6年普及奨励ならびに指導参考事項, 4-7(1994).
 2) 湯本節三 等, 北海道立農試集報, 68, 33-49(1995).

7. 小 豆

(1) サホロショウズ (系統名 十育120号) 1989年
 登録番号: (北海道) 小豆北海道第15号
 (農水省) あずき農林第7号
 (種苗法) 第2339号

来歴 本品種は, 大粒・多収品種の育成を目標とし, 1977年に北海道立十勝農業試験場で「アカネダイナゴン」を母, 「中国在来1」を父として人工交配を行い, 以後選抜と固定を図り1983年より「十系310号」, 1985年から「十育120号」の系統名で各種の試験を行い, 1989年に優良品種となった。なお, ほん品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 主茎長は「ハヤテショウズ」より短く, 主茎節数も少ない。分枝数は「ハヤテショウズ」より多く, 株当たり莢数は「ハヤテショウズ」よりやや多い。
2. 小葉の形は下位葉, 上位葉とも円葉, 毛茸の形は鈍で多少は少である。花色は黄, 莢の長さは中, 熟莢色は褐で, 子実の形は円筒, 大きさは中の大である。種皮色は赤で, 外観品質は「ハヤテショウズ」より優る。
3. 開花期は早の晩, 成熟期は早で「ハヤテショウズ」並であり, 早生種に属する。
4. 耐倒伏性は強, 低温抵抗性は中, 茎疫病及び落葉病

抵抗性はともに弱, ウイルス病抵抗性は中であり, いずれも「ハヤテショウズ」と同じである。

5. 子実収量は「ハヤテショウズ」並である。

栽培適地と奨励態度

十勝山麓・沿海, 網走, 道北, 道央北部及び道央羊蹄山麓とこれに準ずる地域に適し, 当該地域の「ハヤテショウズ」及び「茶殻早生」等に置き換えて普及する。栽培上の注意は, アズキ落葉病・アズキ茎疫病に対する抵抗性が弱いので適正な輪作を行う。また, 密植により多収が期待出来る。

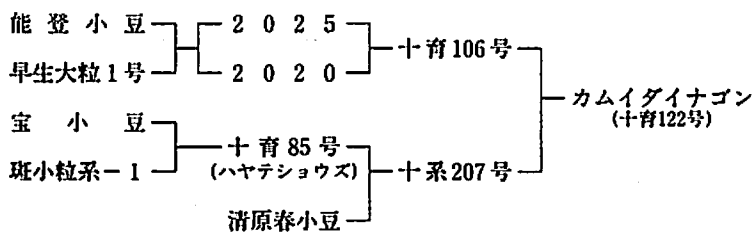
試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒 伏 程 度	成熟期の		10 a 当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
					主茎長 (cm)	莢 数 (莢)	子実重 (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	サホロショウズ	8. 1	9.21	1.5	48	49	281	100	16.0	3中	1985~1988
	ハヤテショウズ	8. 1	9.22	1.7	52	47	280	100	13.4	4上	
	エリモショウズ	8. 5	9.26	1.8	56	43	310	111	14.9	4上	
北見農試	サホロショウズ	8. 2	9.18	0.6	35	38	236	99	15.9	3中	1985~1988
	ハヤテショウズ	8. 2	9.19	0.6	37	41	239	100	13.3	4上	
	エリモショウズ	8. 6	9.24	0.6	39	37	258	108	15.1	3中	
上川農試	サホロショウズ	7.24	9. 7	1.4	56	45	255	100	14.0	3中	1985~1988
	ハヤテショウズ	7.24	9. 7	1.4	58	46	256	100	11.1	3中	
	エリモショウズ	7.27	9.12	1.8	58	44	264	103	12.4	2中	
中央農試	サホロショウズ	7.27	9. 3	0.3	36	39	183	103	12.7	3中	1985~1988
	ハヤテショウズ	7.26	9. 4	0.4	37	39	177	100	10.2	4上	
	エリモショウズ	7.29	9.10	0.5	42	40	230	130	12.1	2下	

注 1) 倒伏程度は無:0, 微:0.5, 少:1, 中:2, 多:3, 甚:4で示し, 以下同じ。
 2) 成熟期の莢数は株当たりの莢数であり, 以下同様である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成元年普及奨励ならびに指導参考事項, 11-14(1989)。
 2) 島田尚典等, 北海道立農試集報, 60, 59-72(1990)。

(2) カムイダイナゴン (系統名 十育122号) 1989年
 登録番号: (北海道) 小豆北海道第16号
 (農水省) あずき農林第8号
 (種苗法) 第2340号

来歴 本品種は, 大粒・良質・多収品種の育成を目標とし, 1979年に北海道立十勝農業試験場において「十育106号」を母, 「十系207号」を父として人工交配を行い, 以後選抜と固定を図り, 1985年より「十系400号」, 1986年からは「十育122号」の系統名で各種の試験を行い, 1989年に優良品種となった。なお, 本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 主茎長は「アカネダイナゴン」より長く, 主茎節数は中, 分枝数は中で「アカネダイナゴン」より少ない。
2. 小葉の形は下位葉, 上位葉とも円葉で大きい。毛茸の多少と形は少と鈍, 花色は黄である。
3. 子実は円筒, 大きさは極大に属し, 百粒重は「アカネダイナゴン」より30%以上重く, 種皮色は濃赤を呈し「アカネダイナゴン」よりやや濃い。
4. 開花期は「アカネダイナゴン」よりやや遅く中の晩, 成熟期も同じ中の晩である。

5. 耐倒伏性は弱, 低温抵抗性は中, 落葉病抵抗性は弱, 茎疫病抵抗性は中, ウイルス病抵抗性は強で「アカネダイナゴン」より強い。
6. 子実収量は「アカネダイナゴン」と同じ中であるが, 同品種と比べやや多い。

栽培適地と奨励態度

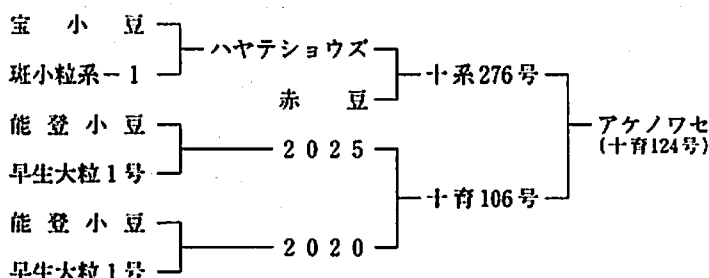
道南及び道央南部に適し, 同地域の大納言小豆 (アカネダイナゴン, その他) に置き換えて普及する。栽培上の注意は, 耐倒伏性が弱いので密植・多肥栽培は避け, アズキ落葉病に対する抵抗性が弱いので適正な輪作を行う。

試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒 伏 程 度	成熟期の		10 a 当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
					主茎長 (cm)	莢 数 (莢)	子実重 (kg)	同左比 (%)			
道南農試	カムイダイナゴン	7.27	9.12	1.0	46	34	262	104	26.1	4上	1987~1988
	アカネダイナゴン	7.27	9.12	0.5	42	43	252	100	17.9	4中	
中央農試	カムイダイナゴン	7.31	9.12	1.3	47	33	252	111	21.0	4上	1986~1988
	アカネダイナゴン	7.30	9.14	0.9	40	46	227	100	15.4	3下	

参照 1) 北海道農務部編, 平成元年普及奨励ならびに指導参考事項, 15-18(1989).
 2) 白井滋久 等, 北海道立農試集報, 60, 73-85(1990).

(3) アケノワセ (系統名 十育124号) 1992年
 登録番号: (北海道) 小豆北海道第17号
 (農水省) あずき農林第9号
 (種苗法) 第4112号

来歴 本品種は, 大粒・耐病 (落葉病, 茎疫病)・多収品種の育成を目標とし, 1981年に北海道立十勝農業試験場において「十系276号」を母, 「能登小豆」を父として人工交配を行いF₂まで北海道立十勝農業試験場で, F₃以降は北海道立上川農業試験場で選抜と固定を図り, 1986年より「十系420号」, 1988年からは「十育124号」の系統名で各種の試験を行い, 1992年に優良品種となった。なお, 本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 主茎長は短であり「ハヤテショウズ」より短く, 主茎節数は少, 分枝数は少に属すが「ハヤテショウズ」より少ない。
2. 小葉の形は下位葉, 上位葉とも円葉であり, 毛茸の多少は少, 形は鈍, 花色は黄である。熟莢色は極淡褐で「ハヤテショウズ」とは異なる。
3. 子実の形は円筒, 大きさは中の少に属し百粒重は「ハヤテショウズ」より重く, 種皮色は同品種より鮮やかな赤である。
4. 開花期は中の早で「ハヤテショウズ」より遅く, 成

熟期は早であるが同品種並かやや遅い。

5. 耐倒伏性は強, 低温抵抗性は中, 萎凋病抵抗性は弱, ウイルス病抵抗性は中, 茎疫病及び落葉病抵抗性はともに強である。

栽培適地と奨励態度

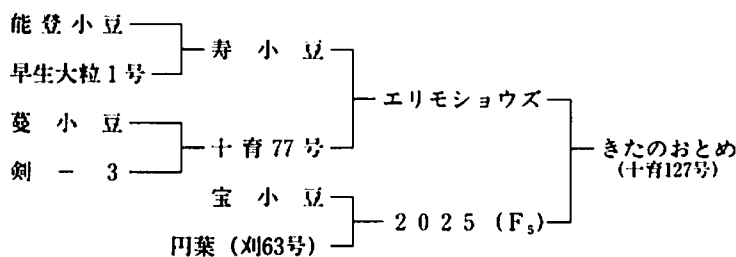
十勝山麓, 沿海, 網走, 道央北部, 道央羊蹄山麓及び道北の一部とこれに準ずる地帯で落葉病または茎疫病の常発地帯に適する。栽培上の注意は, 本品種は落葉病と茎疫病に抵抗性を持つが, 栽培に当っては適正な輪作を前提する。また, 密植により多収が期待でき, 刈り遅れによる品質低下を防ぐため適期収穫を行う。

試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒 伏 程 度	成熟期の		10 a 当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
					主茎長 (cm)	莢 数 (莢)	子実重 (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	アケノワセ	7.29	9.16	0.0	43	56	312	91	13.7	3上	1988~1991
	ハヤテショウズ	7.27	9.16	0.3	52	56	342	100	12.3	3中	
	サホロショウズ	7.28	9.15	0.2	49	54	326	95	15.6	2下	
	ハツネショウズ	7.29	9.23	1.1	52	48	328	96	14.0	3中	
北見農試	アケノワセ	7.26	9.15	0.9	41	45	275	98	14.1	3上	1988~1991
	ハヤテショウズ	7.25	9.14	0.8	46	45	281	100	12.3	3上	
	ハツネショウズ	7.27	9.21	1.0	44	40	285	101	14.1	2下	
上川農試	アケノワセ	7.23	9.7	0.8	46	41	261	113	11.7	3上	1988~1991
	ハヤテショウズ	7.24	9.7	0.6	46	41	230	100	10.7	3下	
	サホロショウズ	7.25	9.13	1.1	45	37	240	104	11.5	3上	
	ハツネショウズ	7.24	9.11	0.7	46	39	252	110	13.0	2下	

参照 1) 北海道農政部編, 平成4年普及奨励ならびに指導参考事項, 6-8(1989)。
 2) 島田尚典等, 北海道立農試集報, 64, 59-73(1992)。

(4) きたのおとめ (系統名 十育127号) 1994年
 登録番号: (北海道) 小豆北海道第18号
 (農水省) あずき農林第10号
 (種苗法) 出願中

来歴 本品種は, 耐冷・耐病 (落葉病)・多収品種の育成を目標とし, 1982年に北海道立十勝農業試験場において「エリモショウズ」を母, 「2025 (F₅)」を父として人工交配を行い, 以後選抜と固定を図り, 1987年より「十系454号」, 1989年からは「十育127号」の系統名で各種の試験を行い, 1994年に優良品種となった。なお, 本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 主茎長は中の短, 主茎節数は中で「ハツネショウズ」よりやや多く, 分枝数も多い。
2. 小葉の形は下位葉, 上位葉とも円葉であり, 毛茸の多少は少, 形は鈍, 花色は黄である。莢の長さは中で, 熟莢色は褐色である。
3. 子実の形は円筒, 大きさは中の小に属し, 百粒重は「ハツネショウズ」よりやや小さく, 種皮色は淡赤で「エリモショウズ」並で, 外観品質も「エリモショウズ」と同等である。
4. 開花期は中の早, 成熟期は中の早に分類され「エリモショウズ」並である。

5. 耐倒伏性と低温抵抗性は中, 茎疫病抵抗性とウイルス病抵抗性は弱, 萎ちょう病抵抗性と落葉病抵抗性は強である。

6. 子実収量は「ハツネショウズ」より多く, 「エリモショウズ」より少ない。

栽培適地と奨励態度

十勝中部, 道央中・南部及び道南とこれに準ずる地帯で落葉病と萎ちょう病の多発地帯に適する。栽培上の注意は, 本品種は落葉病と萎ちょう病に抵抗性を持つが, 栽培に当たっては適正な輪作を前提とし, 茎疫病には抵抗性を持たないので, 茎疫病の発生圃場での栽培は避ける。

試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒伏 程 度	成熟期の		10 a 当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
					主茎長 (cm)	莢 数 (莢)	子実重 (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	きたのおとめ	7.31	9.21	1.1	52	50	309	111	13.4	3上	1989~1993
	ハツネショウズ	7.31	9.23	0.7	45	43	279	100	13.9	3下	
	エリモショウズ	7.31	9.21	0.9	53	51	329	118	14.0	3上	
資源センター	きたのおとめ	7.21	9. 2	0.0	34	40	258	103	12.1	2下	1989~1993
	ハツネショウズ	7.21	9. 2	0.0	32	36	251	100	13.1	3中	
	エリモショウズ	7.22	9. 7	0.0	36	39	267	106	13.1	2下	
中央農試	きたのおとめ	7.24	9. 7	0.1	32	42	254	120	12.1	2下	1989~1993
	ハツネショウズ	7.24	9.10	0.1	29	36	212	100	12.7	3中	
	エリモショウズ	7.24	9. 8	0.1	35	40	260	123	12.5	2下	
道南農試	きたのおとめ	7.26	9.10	0.0	37	44	257	135	10.7	4中	1989
	ハツネショウズ	7.25	9. 9	0.0	33	35	191	100	9.1	4下	
	エリモショウズ	7.26	9.11	0.0	37	38	251	131	10.8	4上	

注) 資源センターは北海道立植物遺伝資源センターである。

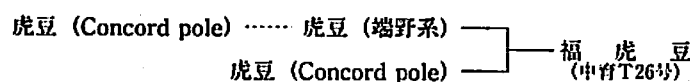
- 参照 1) 北海道農務部編, 平成6年普及奨励ならびに指導参考事項, 7-11(1994)。
 2) 藤田正平等, 北海道立農試集報, 68, 17-31(1995)。

8. 菜 豆

(1) 福虎豆 (系統名 中育T26号) 1989年
 登録番号: (北海道) 菜豆北海道第23号
 (種苗法) 第2573号

来歴 本品種は早熟・多収の虎豆品種の育成を目標に,
 1976年に北海道立中央農業試験場において「虎豆 (端野

系)」を母に、「虎豆」を父として人工交配を行い、以後
 選抜と固定を図り、1983年より「T5803」、1985年からは
 「中育T26号」の系統名で各種の試験を行い、1989年に
 優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりで
 ある。



特性概要

- 主茎長は「改良虎豆」より短く、伸育性と草型は無
限つる性である。
- 胚軸色は緑色、花色は「白に微紅色を帯びる」であ
る。莢の硬軟はやや硬、若莢の色は淡緑で斑紋はない。
- 子実は短楕円体で、色は白、臍の周囲には「淡肉色
地に赤褐色の偏斑紋」がある。粒大は中の大に属し「改
良虎豆」よりやや小さく、外観品質は「改良虎豆」と
差がない。
- 開花期は「改良虎豆」と同じ、成熟期は同品種より
10日程度早く晩の早である。
- インゲンモザイク病とインゲン黄斑モザイク病抵抗
性は弱、インゲンかさ枯れ病抵抗性も弱、インゲン炭

そ病に対する抵抗性は、C3菌株に対しては極強、C
13菌株に対しては中である。

- 総合的な加工適性は「改良虎豆」と差が無く、煮豆
の原料に適する。

栽培適地と奨励態度

道内の虎豆栽培地帯に適する。現在栽培されている熟
期の早い「虎豆在来種」は採種体系が整備されてい
ないので、「虎豆在来種」に替えて栽培を奨励する。栽培上
の注意は、「改良虎豆」の栽培に準じて良いが、各種の病害
に弱いので無病種子の使用に努め、病害の防除を励行し
する。また、密植で多収が期待できるので、「改良虎豆」
より密植にすることが望ましい。

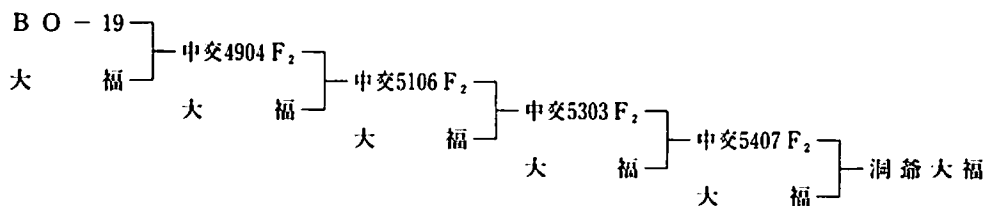
試験場名	品種名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	主茎長 (cm)	分枝数 (本/株)	着莢数 (個/株)	子実重 (kg/10a)	子実重比 (%)		百粒重 (g)	品質 (等級)	試験年次
								改良 虎豆比	虎豆 端野比			
中央農試	福虎豆	7.28	9.16	237	3.3	28.6	185	79	88	69.7	2	1985~1988
	改良虎豆	7.28	9.26	290	2.1	34.8	233	100	111	71.1	2	
	虎豆(端野)	7.28	9.24	283	2.3	32.6	210	90	100	71.5	2	

参照 1) 北海道農政部編, 平成元年普及奨励ならびに指導参考事項, 19-21(1989)。

(2) 洞爺大福 (系統名 中育F12号) 1992年
登録番号: (北海道) 菜豆北海道第24号
(種苗法) 第4175号

「BO19」を母本, 「大福」を花粉親として交配したF₂に, 「大福」を戻し交配する手順を4回繰り返した後代から選抜と固定を図り, 1987年より「中交5503-7」, 1989年からは「中育F12号」の系統名で各種の試験を行い, 1992年に優良品種となった。なお, 本品種の系譜は次のとおりである。

来歴 本品種は, 1980年に北海道立中央農業試験場において大粒・良質・多収の大福類品種の育成を目標に



特性概要

1. 伸育性と草型は無限つる性に属し, 主茎長は長く, 胚軸色は緑, 花色は白, 莢の硬軟は硬である。
2. 子実は腎臓形で, 粒大は中の大, 種皮色は白で斑紋は無い。
3. 開花期は7月中旬, 成熟期は8月下旬~9月上旬で「改良早生大福」と同じで, 「大福」より10日早い中生種である。
4. インゲン黄斑モザイク病及びインゲンモザイク病抵抗性は「改良早生大福」や「大福」と同様弱である。

5. 子実収量は「改良早生大福」よりやや劣るが, 規格内収量は「改良早生大福」より多収である。
6. 煮豆, 甘納豆の原料として「改良早生大福」と同程度の加工適性を有する。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適する。現在栽培されている「改良早生大福」は年次や地域によって規格内収量が少なくなるので, 「改良早生大福」や「大福」の一部に置き換えて普及する。栽培上の注意は, 各種の病害に対して耐病性がないので, 無病種子の使用に努め, 防除を励行する。

試験場名	品種名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	着莢数 (個/株)	子実重 (kg/a)	標準 対比 (%)	規格 内率 (%)	規格内 収量 (kg/a)	百粒重 (g)	厨豆 歩合 (%)	品質 (等級)	試験年次
中央農試	洞爺大福	7.17	9.3	32	21.1	92	86.3	18.3	72.8	7.5	3	1989~1991
	改良早生大福	7.17	9.3	35	23.0	100	48.7	11.2	63.2	4.5	3	
	大福	7.21	9.13	32	24.4	106	93.4	22.7	77.7	3.8	2	

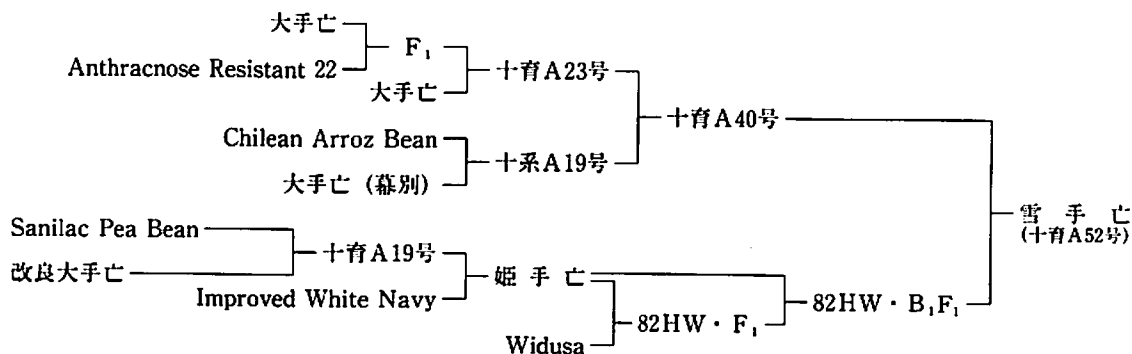
注) 規格内率は9.1mmの篩選別による。

参照 1) 北海道農務部編, 平成4年普及奨励ならびに指導参考事項, 13-15(1992)。
2) 南忠等, 北海道立農試集報, 67, 19-28(1994)。

(3) 雪手亡 (系統名 十育A52号) 1992年
 登録番号：(北海道) 菜豆北海道第25号
 (種苗法) 第4713号

来歴 本品種は炭そ病抵抗性で良質、多収の手亡類品種の育成を目標とし、1983年に北海道立十勝農業試験場

において「十育A40号」を母、「82HW・B₁F₁」を父として人工交配し、以後選抜と固定を図り、1987年より「十系A154号」、1989年からは「十育A52号」の系統名で各種の試験を行い、1992年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 胚軸色は緑、伸育性と草型は有限叢生、草丈は高、主莖節数は中である。
2. 花は白、莢の硬軟な硬、若莢色は淡緑、斑紋色はなしである。
3. 子実は楕円体、大小は小、種皮色は白、環色は無である。
4. 開花期と成熟期は「姫手亡」並の中である。
5. 耐倒伏性は中、インゲン黄斑モザイク病及びモザイク病抵抗性は弱、炭そ病抵抗性と低温抵抗性は強である。

る。

6. 子実収量は「姫手亡」と同じ中であるが、やや多収である。
7. 原料豆の種皮歩合、煮熟及び製あん特性は「姫手亡」とほぼ同様であり、加工適性も同品種と同等である。

栽培適地と奨励態度

北海道一円の「姫手亡」の一部と置き換えて普及し、クリーン農業・低コスト農業に寄与する。栽培上の注意は、インゲン炭そ病の莖葉防除は不要であり、その他の病害防除と肥培管理は、従来の品種に準じて行う。

試験場名	品種名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒伏 程度	落葉 良否	草丈 (cm)	分枝数 (本/株)	莢数 (本/株)	10a 当り		百粒重 (g)	品質 (等級)
									子実重 (kg)	同左比 (%)		
十勝農試	雪手亡	7.22	9.13	1.9	1.7	58	5.5	28.6	362	105	32.7	1
	姫手亡	7.22	9.13	2.0	2.7	53	5.7	29.6	344	100	32.7	2下
北見農試	雪手亡	7.22	9.17	1.8	2.6	50	6.3	29.1	354	108	35.3	1
	姫手亡	7.22	9.16	1.9		47	6.3	28.5	328	100	34.3	2上
上川農試	雪手亡	7.16	8.30	1.9	1.5	54	5.4	22.3	241	111	25.9	2上
	姫手亡	7.17	8.28	2.3	1.5	56	5.6	23.3	218	100	25.3	3中
センター	雪手亡	7.12	8.19	0	1.0	47	3.9	21.6	249	110	27.2	2中
	姫手亡	7.11	8.19	0	1.0	46	3.7	21.1	227	100	26.7	2下

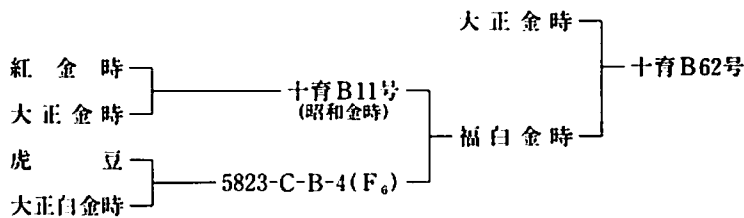
注 1) 試験年次：1989～1991年。
 2) 倒伏程度：0(無)～4(甚)、落葉良否：1(良)～5(不良)で示し、以下同様である。
 3) センターは北海道立植物遺伝資源センターである。

参照 1) 北海道農務部編、平成4年普及奨励ならびに指導参考事項、9-13(1992)。
 2) 品田裕二等、北海道立農試集報、66、25-34(1994)。

(4) 福勝 (系統名 十育B62号) 1994年
 登録番号：(北海道) 菜豆北海道第26号
 (種苗法) 出願中

来歴 本品種は、早生で多収・大粒良質の金時類の育成を目標とし、1985年に北海道立十勝農業試験場におい

て「大正金時」を母、「福白金時」を父として人工交配をし、以後固定と選抜を図り、1990年より「十系B185号」、1991年からは「十育B62号」の系統名で各種の試験を行い、1994年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 胚軸色は淡赤紫で、伸育性と草型は有限矮性であり、草丈は「大正金時」よりやや高く、主茎節数は少である。花色は淡赤紫、莢の硬軟は硬、若莢色は緑、斑紋は無である。
2. 子実は楕円体、大きさは大、種皮色は赤紫で斑紋は無く、環色は無である。
3. 開花期と成熟期は「大正金時」と同じ早であるが1～2日遅く、「北海金時」よりは早い。
4. 耐倒伏性は中、葉落ちの良否はやや良で、インゲン黄化病抵抗性は「北海金時」より弱く「大正金時」並、

インゲン黄斑モザイク病及び炭そ病抵抗性は「大正金時」と同じ弱である。

5. 子実収量は「大正金時」より多収である。
6. 加工適性は総じて「大正金時」と同等である。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適する。栽培上の注意は、草丈がやや高く、倒伏を招くことがあるので多肥栽培はさけ、大粒なので脱穀時の粒の損傷に注意する。また、インゲン黄化病の防除を徹底するとともに、圃場の雑草化したクローバの除去に努める。その他の病害防除と肥培管理は、従来の品種に準じて行う。

試験場名	品種名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒伏 程度	落葉 良否	草丈 (cm)	分枝数 (本/株)	莢数 (本/株)	10a当り		百粒重 (g)	品質 (等級)
									子実重 (kg)	同左比 (%)		
十勝農試	十育B62号	7.16	9.11	0.9	1.8	40	3.3	12.3	272	113	95.0	2下
	大正金時	7.15	9.9	0.5	3.5	38	3.3	12.8	241	100	77.5	3上
	北海金時	7.14	9.16	0.7	3.6	43	3.2	12.3	261	117	95.3	3中
北見農試	十育B62号	7.12	9.10	1.5	1.6	41	3.1	15.8	307	114	99.1	3上
	大正金時	7.11	9.8	1.3	2.0	37	3.3	16.2	270	100	81.2	3上
	北海金時	7.11	9.17	1.4	2.2	42	3.3	13.8	343	127	98.8	3上
上川農試	十育B62号	7.10	8.31	0.5	1.8	40	4.0	13.9	265	148	77.0	1上
	大正金時	7.9	8.30	1.0	3.0	38	4.1	11.9	179	100	63.5	2中
	北海金時	7.9	9.4	0.3	3.1	43	4.0	12.0	218	122	77.6	2中
資源センター	十育B62号	7.5	8.17	0.0	1.8	29	1.5	10.2	169	109	71.6	2中
	大正金時	7.4	8.16	0.0	2.0	29	2.1	9.8	156	100	63.9	2中
	北海金時	7.4	8.20	0.0	2.7	31	1.7	9.2	187	120	78.5	2上

注) 資源センターは北海道立植物遺伝資源センターである。

参照 1) 北海道農務部編, 平成6年普及奨励ならびに指導参考事項, 12-15(1994)。